

事業者における放課後デイサービス自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月1日

事業所名 西紋子ども発達支援センター

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 工夫している点
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	0	0	
	2 職員の配置数は適切である	2	1	4	0	・専門職の不足 ・国の基準は可。しかし多様なニーズ増加に基づき職員はまだ十分とは言えないところあり
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	0	0	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	2	1	0	・療育会議、ミーティング、ケース会議などで話し合いをすることはよくあるが、それぞれの職員の業務時間や業務状況により見直す時間が最低限になっているところがある
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	0	0	・評価の実施による意向の確認はしている。しかし、職員体制、利用者人数体制などの課題があり、出来る範囲というところにとどめているところもある
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	1	0	・会員全員に送付及びセンターホームページにて公表している
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	1	1	・個別においての外部関係者からの指摘については、出来る限り改善できるように努めているが、全てのニーズに応じるという点ではまだ不十分 ・第三者による外部評価は実施していない
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	0	・確保はしているが、療育がいつばいの状態となっている ・療育アドバイザー研修、外部案内研修、出張研修、自己研修（案内を全職員に周知）など
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	1	0	・短期評価、長期評価により見直しをしている。また、担当者会議、ケース会議、巡回支援、面談等によりニーズを確認
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3	1	0	・構造化されたものは、児の状況に応じて使用。アセスメントツールの他にチェックリストなども状況に応じて使用
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	0	0	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	0	0	・ある程度、固定化が必要な児もいるので、状況に応じて行う。全てが同じものにはならないよう配慮はしている
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	5	0	0	・平日、休日、定期休暇という限定はしているが、課題を設定し支援はしている
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を敵宣組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0	0	・個別、グループ個別、グループと形態分けが児の状況、保護者ニーズによりある程度なされている
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	2	0	0	・できている場合とできていない場合があり、必ずとは言えない ・週案の立案や打ち合わせの他、不在の職員や休みの職員にも分かるように回覧している
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	5	0	0	・短期評価について ・できている場合とできていない場合があり、必ずとは言えない ・時間がある時には、合間で行うことはあるが、他に月案立てや評価の時に振り返り共有をしている
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	0	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	0	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	3	0	1	・時間が限られているので完全に行っているとは言えないが、ある程度は行っている
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	0	0		
21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	2	5	0	0	・概ねできているところもあるが、全てが毎度完全という点では不十分などところがある（学校や児、保護者の状況にもよる）	

	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	0	1	・現在医療的ケア児は通所していない、通所する場合については対応は親が主となる
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1	0	0	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2	0	0	・状況に応じて行う（必要に応じて）
関係機関や保護者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	0	0	・美幌療育病院、旭川総合療育センター、発達障害者支援道東地域センター「きら星」からの支援 ・療育アドバイザー3名と契約し助言や研修を行っている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	1	4	0	・今後、児童館の完成に伴い、幅が広がる可能性はある
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	2	1	0	・最低でも1名（主に課長職）が出席し、報告をしている ・療育時間帯の開催が多いため、時間の確保が難しい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	0	0	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	2	0	・来年度、ことばを育てる親の会にて企画 ・今後導入予定 ・保護者向け研修会の開催など時折行っている
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1	1	0	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	0	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	0	0	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	0	0	・苦情処理要綱を作成し、対応している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	0	
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0	0	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	2	0	・通所を知られたくない保護者もいることから配慮が必要 ・今後、検討が必要 ・一般向け研修会は開催している
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	0	0	・入庁時に研修を受けた ・ロビーの本棚に全マニュアルを配置した。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	1	0	・職員のみによる避難訓練を実施している
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	0	0	・療育アドバイザーによる研修の実施を検討する
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	3	0	1	・現在、身体的拘束の対象となる児は通所していない ・今現在、行う必要はない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	1	0	・食事提供はしていない ・行事等で菓子などおやつを提供する場合において、保護者から確認は取っている ・給食提供がない。親子カフェなどでおやつを出す時は保護者に確認をしている
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	0	・ヒヤリハット集を作成した（随時追加を行う）	